

**令和7年度 第2回生野区区政会議
まちの未来部会**

1 開催日時

令和7年12月12日（金） 19時00分～

2 開催場所

生野区役所 5階 502・503 会議室

3 出席者

（区政会議委員）6名

平島委員、大久保委員、中村（寛）委員、須郷委員、松崎委員、吉住委員

（その他関係者）2名

西村委員、安藤委員

（生野区役所）7名

筋原生野区長、大川副区長、宮城企画総務課長、木村地域まちづくり課長、
竹中まちづくり推進担当課長、森区政推進担当課長、金田企画総務課長代理

4 委員に意見を求めた事項

（1）部会長・副部会長の選出について

（2）令和8年度生野区の取組（案）について

（3）その他

・会議資料 令和8年度生野区の取組（案）について

【別紙】生野区グローバルタウンプロジェクト資料

・会議資料 本日の意見交換の主なテーマ

・【参考資料1】事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応

・【参考資料2】主なご意見等と区の考え方、対応

（令和7年度 第1回生野区区政会議 全体会）

5 会議内容

○森区政推進担当課長

それでは皆さま大変お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから令和7年度第2回生野区区政会議まちの未来部会を開催させていただきます。

本日はご多用のところ、当会議にご出席いただきありがとうございます。私は事務局の生野区役所企画総務課の森と申します。どうぞよろしく願いいたし

ます。着座にて失礼いたします。

それでは、本日は委員改選により新しいメンバー構成となっておりますので、名簿の順にご紹介させていただきます。お名前をお呼びした際にはお手数ですが、ご起立をお願いします。

平島委員でございます。

○平島委員

よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

大久保委員でございます。

○大久保委員

大久保です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

中村委員でございます。

○中村（寛）委員

中村です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

須郷委員でございます。

○須郷委員

こんばんは、林寺の須郷です。どうぞよろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

松崎委員でございます。

○松崎委員

松崎です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

吉住委員でございます。

○吉住委員

吉住です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

なお和田委員、長田委員、杉浦委員につきましては、所用により本日もご欠席です。本日の会議は、委員定数9名に対して6名のご出席がありますので、定数の2分の1以上の出席で有効に成立していることをご報告します。そして本日の傍聴者は1名となっております。また、本日は他の部会からオブザーバーとしてご出席いただいている委員の方々がおられますのでご紹介します。

こどもの未来部会の西村委員でございます。

○西村委員

よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

くらしの安全・安心部会の安藤委員でございます。

○安藤委員

こんばんは。今日オブザーバーとして皆さまの意見お聞きします。

○森区政推進担当課長

オブザーバーの方につきましては、部会長から求めがあった場合に、ご発言いただけることになっておりますので、よろしくお願ひします。

区政会議に関する本市の規則により、本日出席いただいた委員の方のお名前、発言内容等は公開されます。事務局におきまして議事録を作成し、後日、区のホームページなどで公開させていただくほか、会議の様子を収録して、後日YouTubeにおいて配信し、どなたでも閲覧できるような形にしていきたいと思いますので、録音や撮影につきましてご了承のほどよろしくお願ひします。つきましては、議事録を作成する都合上、ご発言いただく際にはマイクをお使いいただき、口元で大きめの声でご発言いただきますよう、ご協力お願ひします。

さて、まちの未来部会では、主にまちの魅力や地域活性化等の分野について、令和7年度の生野区を取組を振り返り、次年度を取組につなげていくため、委員の皆さまにご意見やご議論をいただきたいと考えております。本日の会議でいただいたご意見等は、後日開催される全体会の場で報告しまして、全ての委員の皆さまに共有していただきます。

続きまして本日の資料についてご説明します。「令和7年度第2回生野区区政会議まちの未来部会次第」をご覧ください。そちらに本日の会議資料を記載しております。

まず、会議資料として、事前に送付しております「令和8年度生野区を取組(案)について」という資料です。次に、会議資料として、のちにスクリーンにて投影するスライドを印刷した「本日の意見交換の主なテーマ」という資料です。次に、参考資料1として、「事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応」という資料です。次に、参考資料2として、前回6月に開催した全体会でいただいた「主なご意見等と区の考え方、対応」という資料です。資料がお揃いでない場合は、挙手いただければ事務局からお持ちします。

それでは会議の開催にあたりまして区長の筋原からご挨拶申し上げます。

○筋原生野区長

皆さんこんばんは、区長の筋原です。本日はお仕事やご家庭のご用事でお忙しい中、生野区の区政会議まちの未来部会にご出席いただき、誠にありがとうございます。今回より新しくなられた委員の皆さま、どうぞよろしくお願ひします。

区政会議とは条例に基づき開催するもので、区における施策・事業について区

民の皆さまから意見・評価をいただき、立案段階から意見を把握して、適宜これを反映させるとともに実績、そして成果の評価に係る意見をお聞きすることを目的としております。

中でもまちの未来部会のテーマですが、まちの魅力や地域活性化といった分野で生野区に行きたい、住みたい、住み続けたいと、まちを面白くするような魅力あるまちづくりをめざした取組となっております。本日は令和7年度の取組を踏まえて、次年度8年度の生野区の取組についてのご説明させていただきます。この取組は、私自身の思いを込めた将来ビジョンを、来年8年度の、最終年度までしっかりやり遂げるというためのもので、確実に進めていきたいと考えておりますので、本日も忌憚のないご意見をいただき、より良い区政に繋げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくご意見申し上げます。

○森区政推進担当課長

ありがとうございました。

それでは本日の会議の流れを大まかに説明させていただきます。

まず、改選後の新体制となりますので、議事1で、部会長・副部会長の選出をしていただき、議事2で令和8年度生野区の取組（案）と事前にいただいたご質問等と区の考え方、及び本日のテーマによる意見交換を行っていただきたいと思っております。本日も様々なご意見のほど、よろしくご意見いたします。

議事に入るにあたり、後ほど委員の皆さまで部会長と副部会長を選任いただきますが、それまでの間、事務局の方で進行を務めさせていただきます。

それでは議事に入ります。お手元の次第の議事1の部会長・副部会長の選出についてです。生野区区政会議運営要綱の第7条第3項の規定に基づき、委員の皆さまの互選により部会長および副部会長を選出いただきます。まず、どなたに部会長をお願いするか、ご推薦などございませんでしょうか。

○中村（寛）委員

私は前回もまちの未来部会に所属させていただきました。これまでの参加状況などを総合的に見て、経験のある須郷委員を部会長に推薦したいと思っております。

○森区政推進担当課長

ありがとうございます。ただいま中村委員の方から須郷委員とのお声がありました。ご異議はありませんでしょうか。

それでは、須郷委員が部会長に選任されましたので、須郷委員はお手数ですが、部会長席に移りお願いいたします。

それでは、ここからの議事進行については、須郷部会長にお願いしたいと思います。須郷部会長、よろしくご意見いたします。

○須郷委員

ただいま、まちの未来部会の部会長に選任いただきました須郷と申します。不

慣れなところもあろうかと思いますが、皆さま、どうぞよろしく申し上げます。

それでは続きまして、副部会長の選任を行ってまいります、ひとまず私の方から候補の方をご指名させていただきたいと思っております。

新しい委員ではありますが、地域の活性化などに積極的に取り組んでいらっしゃる松崎委員にお願いしたいと思っておりますが、ご異議はありませんでしょうか。

それでは、副部会長は松崎委員に決まりましたので、松崎委員は副部会長席にご移動をお願いします。

それでは副部会長の松崎委員から一言申し上げます。

○松崎委員

ただいま、まちの未来部会の副部会長に選任いただきました松崎です。皆さま、どうぞよろしく申し上げます。

○須郷委員

ありがとうございます。

それでは早速ですが、会議の次第に沿いまして、次の議事に入ります。区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に行っている私たちが、行政と共に、生野区の課題解決のために、どう取り組むべきかを建設的に考える、そういう趣旨の会議となります。そのため、委員の皆さまの個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って、積極的なご発言をお願いできればと思います。なお、意見交換に際して、限られた時間でより円滑に進めていただけるよう、ここからは学識委員の吉住委員にファシリテーターをお願いしたいと思います。それでは、吉住委員、よろしく願いいたします。

○吉住委員

皆さま、こんばんは。

部会長からご指名いただきました吉住です。これからは、皆さまの意見交換のお手伝いをさせていただきますので、よろしく申し上げます。

まずは、会議の次第に沿いまして、議事2令和8年度生野区の取組（案）について、区役所からご説明をお願いします。

○金田企画総務課長代理

企画総務課の金田と申します。よろしく申し上げます。

では、令和8年度生野区の取組（案）についてご説明いたします。

まず、生野区運営方針とは何かということについて、簡単にご説明します。前方のスクリーンをご覧ください。生野区運営方針とは、区における「施策の選択と集中」の全体像を示す方針として毎年度策定するものであり、生野区将来ビジョンに向けた毎年度のアクションプラン（毎年度の施策・事業の取組を明らかにするもの）となります。下の図をご覧くださいとイメージしやすいかと思っております。生野区のめざす将来像や施策展開の方向性等を示したものが「生野区将来ビジ

ョン」であり、それに向け毎年度のアクションプランとして策定するのが「生野区運営方針」となります。

それでは、「令和8年度生野区取組（案）について」ご説明いたします。事前に配付している「令和7年度第2回生野区区政会議資料 令和8年度生野区取組（案）について」をご覧ください。

表紙をめくっていただき、1ページ目には、生野区のめざす目標と使命、そして生野区の運営の基本的な考え方として、生野区政3本柱を記載しております。この3本柱ですが、資料の最終ページをご覧ください、「生野区グローバルタウンプロジェクト」として詳細を記載しておりますので、少し説明させていただきます。

まず、「教育・地域福祉」として外国籍の方が安心して暮らせるまちづくりをめざし、公民連携により支援機関等の活動をサポートする環境をつくりあげていくことをめざします。次の「地域経済活性化」として、技術力の高い製造業はあるが減少の一途を進んでいるため、製造業とデザイナーをマッチングすることにより新商品の開発や新たな雇用の創出、また外国ルーツの人を対象にしたセミナーを実施し起業機会を提供します。そして「観光集客」として、年間200万人が訪れる観光地である大阪コアタウンですが、夕方5時には閉店するため、インバウンド客が夜も楽しめるまちとして、台湾の夜市のような賑わい拠点の創設をめざすこととしています。これらの3つの柱の取組を進めているところです。2ページにお戻り下さい。めざす状態、課題認識、主な戦略、評価指標、令和7年度取組実績、令和8年度取組・予算要求額について、それぞれの戦略ごとに、見開き2ページでまとめています。基本的には令和7年度に引き続き、各種取組を行ってまいります。

それでは、まちの未来部会に関する取組の部分についてご説明いたします。資料の12ページをご覧ください。経営課題2「にぎわいといろどり豊かな魅力のあるまち」戦略2-1「リノベーションまちづくり」についてご説明させていただきます。2の課題認識としまして、万博レガシーを継承したまちの活性化、ものづくり産業の振興、学校跡地活用、空家等の利活用、移動手段の確保について取組を進めていく必要があるため、3の主な戦略として、各課題に対する戦略を記載させていただいております。4の評価指標ですが、地価公示価格の上昇により評価を行うこととし、生野区内の地価公示価格（標準地）のうち、4か所について、前年度より上昇をめざし、令和6年実績としては全て上昇しております。13ページをご覧ください。5の令和7年度10月末時点の取組実績について、【万博を契機にしたまちの活性化】ですが、『EXPO いくのヒートアッププロジェクト』プロモーション事業として「まちごと万博 EXPO いくの」や地域を盛り上げる「バイローカルの日」を実施し、また「食を通じた国際文化交流事業」につ

いては、再掲と記載していますが、資料 11 ページに戻っていただきまして、5 の令和 7 年度の実績、上から 2 つ目の、【外国につながる住民が安心して暮らせる環境づくり】の下から 2 つ目をご覧ください。「食を通じた国際文化交流事業『EXPO いくの万博夜市～韓国フェア・ベトナムフェア～』」を開催しました。また 13 ページに戻っていただきまして、令和 7 年度の実績の【ものづくり生野のポテンシャル】について、生野区のものづくり企業とクリエイターをマッチングして商品開発することで地域の活性化をめざす「生野ものづくりタウン事業」ですが、令和 7 年度は 5 社が参加しています。ものづくり企業への取材、勉強会を 4～6 月に開催し、町工場とマッチング希望のクリエイターの募集を行いました。そしてものづくりのまち生野の PR として、イベントでの展示や出展を行いました。【持続可能な地域公共交通の推進】ですが、オンデマンドバスの周知活動を 7 回、シェアサイクルについては、ポート数が生野区・天王寺区合わせて 51 箇所となっています。6 の令和 8 年度の主な取組・予算要求額について、万博を契機にした取組は終了しましたが、万博レガシーを継承する取組について、万博後もにぎわい創出のサポートを行っていきます。また、「生野ものづくりタウン事業」では、これまでの参加企業のフォローアップやものづくり企業のネットワーク自走化をめざして事務局機能構築の支援を行い、そして学校跡地については、建物を適切に保全するために校舎等の大規模改修を実施するため、予算を増額しています。

14 ページをご覧ください。戦略 2-2「生野区シティプロモーション」について説明します。2 の課題認識ですが、発掘・浸透されていない「まちの魅力」や、生野区に來たい・住みたいと思うような情報発信について、まだまだ十分でないということが挙げられます。3 の主な戦略として、わがまち意識の浸透や様々な情報発信を行うとしております。4 の評価指標についてですが、シビックプライドの醸成や若年層の興味・関心を引くためには、インフルエンサーなどと協力して PR することが効果的であるため、公民連携を活用したまちの魅力 PR 及び情報発信等の回数を毎年 20 回以上とし、令和 6 年は 54 回実施しました。また若年層の転出・転入が前年より減少・増加する状態については、「毎年 4 月 1 日現在推計人口 10 代～30 代で比較」とし、転入数は増加しています。15 ページをご覧ください。5 の令和 7 年度 10 月末時点の実績について、2 つ目の【「生野区の魅力」を「世界の魅力」に】ですが、公民連携を活用し、大阪プロレスさん、レッドハリケーンズ大阪さん、生野区住みます芸人のムジンゾウさんに、特殊詐欺・交通ルール・防災などの動画にご出演いただいております、区役所 1 階のモニターや、SNS 等で情報発信しています。6 の令和 8 年度の主な取組・予算要求額は掲載のとおりとなっており、生野区出身の YouTuber ジョーブログと令和 6 年 10 月に連携協定を締結するとともに、ジョーブログのジョー氏を生野区振興・親

善・観光大使に任命しています。公民連携を活用し、地域課題の解決や地域の魅力についても効果的に情報を発信していきます。

20 ページをご覧ください。戦略 4-1「まちづくり協議会による自律的な地域運営の促進」について、ご説明します。2の課題認識ですが、コミュニティの醸成、災害対応、高齢者の見守りなど、まちづくり協議会に求められる役割は一層大きくなっているため、地域の特色、実情を踏まえて、より効果的な支援が必要です。まちづくり協議会の意義や、求められる機能について、理解を促進するための働きかけや、情報発信を行っていく必要があるため、3の主な戦略としまして「まちづくり協議会による自律的な地域運営の促進」を進めてまいります。4の評価指数ですが、地域活動協議会の構成団体が、自律的に進められている状態にあると思う割合を90%としております。21 ページをご覧ください。5の令和7年度10月末時点の取組実績について、市民活動相談会など、記載の取組を実施しています。6の令和8年度の主な取組・予算要求額ですが、令和7年度に引き続き、地域活動協議会補助金を19地域に交付し、まちづくり協議会に効果的な支援ができるよう、まちづくりセンターに委託することとしています。

令和7年度生野区の取組についての説明は以上となります。

次に、参考資料2の「事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応について」をご覧ください。まちの未来部会に関するご質問のみ説明します。4ページ目、くらしの安全・安心部会の安藤委員より、民泊問題についてご質問がありました。「まちづくり協議会による自律的な地域運営の促進」という経営課題において、民泊問題にどう対処するか。市内には特区民泊施設が7,000軒以上あり、生野区は4番目に多く、400軒ほどあると考えられています。新規受付が停止になるのに伴い駆け込み申請が予想され、最終的に600~700軒の施設が区内に定着すると予想され、許容限度ぎりぎりだと考えられます。問題は民泊を地域課題としてどう解決し、地域住民の生活と民泊施設の運営との共生をどうはかっていくかということです。現在、私の町内には5軒の特区民泊施設があり、1月にはもう1軒開業予定です。これまで、全ての事業者に説明会を開催させ、周辺住民に向かって適正な施設運営をするよう誓わせてきたので、騒音、ゴミ、事業者との連絡不通といったトラブルは一切ありません。また、事業者にはきちんと町会費を支払わせています。特区民泊に関する「ガイドライン」によれば、説明会の開催は義務づけられているにもかかわらず、多くの自治会ではうまく機能せず、説明会をやらないまま周辺住民はほったらかしにされているように見受けられます。

まちづくりセンターを通して、各自治会・町会長に、民泊問題への取り組み方をもっと啓蒙すべきではないでしょうか。というご意見に対しまして、区の考え方、対応としまして、これまで本市保健所環境衛生監視課を中心に、違法民泊撲

滅チームなどが不適正な状況を改善するための取組を進めてきたところです。施設数の増加に伴い苦情件数も増加するなど課題への対応が急務となってきており、特区民泊については来年5月に新規受付を停止するとともに、新たに環境衛生監視課内に迷惑民泊根絶チームを設置し、営業実態調査を始めております。一方、民泊については当区に多く見られる空家を活用することでの地域の活性化や交流促進が進むなどのメリットもあり、それらと実態調査の結果を踏まえた対応が待たれるところです。また、当区のまちづくりセンターは、地域の特性や実情に即した地域運営を図るため様々な活動主体が参画し、身近な地域課題に取り組む組織であるまちづくり協議会を支援する役割を担っています。民泊に関わる諸問題についても、地域課題として地域間の情報共有や対応に関する窓口を確認するなど取組を進めておられます。そのため、まちづくりセンターと連携して、今後、各まちづくり協議会の役員などを対象とした学習会を開催するなど民泊問題の啓蒙についての検討を進めてまいります。

まちの未来部会にいただいた事前質問に対する回答は以上となります。その他の質問及び回答につきましては、お時間があるときにご覧ください。

最後に、本日は、資料を配付していますが、令和6年度より継続して実施している意見交換の主なテーマを設定させていただいております。「EXPO いくのヒートアッププロジェクトプロモーション事業で実施した、地域のよき商いを守り育てる取組で、まちに住む人たちが自らの行動で地域に変革を起こし、未来の素敵な暮らしづくりに取り組み、まちの新しい価値を創造するプロジェクト「バイローカルの日」を来年度以降も地域住民が主体となって継続していくにあたり、この取組をより多くの地域の人に知ってもらったり、地域と一体となって盛り上げていくには、どのようなアイデアが考えられるか。

特にご意見やアイデアをいただきたいので、どうぞよろしくお願いします。

事務局からの説明は以上となります。

○吉住委員

ただいまの区役所からの説明について、もしご意見やご質問などがありましたらよろしくお願いします。ただ、発言いただく際には挙手の上、お名前を述べさせていただきますようご協力お願いします。

では、これから皆さまで意見交換を進めていきたいと思っております。今回、特にご意見等をいただきたいということで、皆さまのお手元にも資料があると思っておりますが、テーマを設定いただいております。このテーマに沿ってご意見を自由に出していただきたいと思っておりますが、皆さんせっかく忙しい中参加していただいているので、何かしら一言はご発言いただけたらと思っております。大体1人あたり10分ぐらいは時間があるので、結構なことを喋れると思っております。もし手を挙げられる方がいれば、その方からご発言いただけたらと思っておりますが、なければ最初は順

番にご発言いただけたらと思います。確認のため、テーマを改めて読み上げますが、『EXPO いくのヒートアッププロジェクト』プロモーション事業で実施した、地域のよき商いを守り育てる取組である『バイローカルの日』を来年度以降も地域住民が主体となって継続していくにあたり、この取組をより多くの地域の人に知ってもらったり、地域と一体となって盛り上げていくには、どのようなアイデアが考えられるか。」ということです。では皆さん、よろしくお願いします。

○平島委員

テーマをもう少し絞ってもらえると答えやすいのですが、あんまり漠然とすると私は多分2、3時間喋ってしまうので。

○吉住委員

おっしゃる通りですね。地域にとっての「よき商い」って何か、みたいなのところもありますが、答えがあるかという点とそういうものではないので、逆に今思い描いていただいた「よき商い」について、例えば自分たちが商売をしていることや、自分の地域でどんな商売が多くあるかとか、普段買い物をしてるところなどを起点に、皆さんに情報提供する意味も込めて、紹介も兼ねて一旦ご発言いただけると、その後議論ができると思うので、何かご発言をお願いしてもいいですか。

○平島委員

私は御幸森まちづくり協議会の理事長をやっていますが、うちの地域では年3回、3大イベントである、春の桜まつり、夏の盆踊り、そして先週の日曜日にやった餅つき、それから、イルミネーションをやっています。多分、うちほど盛り上がっている地域はないんじゃないかというぐらい、どこにも負けないようなことをやっているつもりです。何が言いたいかというと、この人数で、この年寄りのメンバーでこれぐらいのことやっているということがすごいことなので、若い人がいる地域だったら、それなりにできるんですけど、うちは本当に老体に鞭打ってやっているんで、よくやっているなと思いますね。うちの地域の子どもたちにはすごく喜んでもらっていると思っていますし、これ以上はもうできないというぐらいやっていますね。

○吉住委員

めちゃくちゃ地域自慢の会になりそうですごく良かったのです。隣の席なので、先ほどちょっとご紹介いただいたのですが、今年はイルミネーションを去年よりも300m伸ばしたり、規模も大きくして、本当に子どももたくさん参加しているということでした。今回のテーマは、多分それと全然違うことをしましようと言っているわけではないと思うんですよね。「バイローカルの日」という、初めての方や若い人たちも参加しやすいようなテーマを設けて、例えばものづくりで思いを持った方とか作家さんや、飲食で思いを持った方たちが、マルチ的にイベントをする機会だったのだと思います。それと今おっしゃっていたような、

地域の普段からやっている取組が掛け合わされると、もしかしたら老体に鞭打たなくてもよくなるということもあるかもしれません。例えば、若者にも入ってほしいという気持ちがあるのならば、こういったところに入ってほしいとか、そういったことも踏まえて情報提供いただけたらなと今思いました。実際、私は生野区を歩いてまわり、バイローカルに参加したお店の方にインタビューすると、隣の区からも結構若い方が来て、その後、ゴミ拾い清掃活動などを一緒にするイベントを開いたりして、今までただの消費者だった人たちが、結構作る側に回るきっかけになったということで、転機ではあったようです。きっかけとしてそういうものを知っていただけたらなと思います。

それを踏まえて、何かプラスで、「もし若者がいれば、実はこういうことができるんだけど。」みたいなものがあつたら、ご意見お願いします。

○平島委員

うちの地域には、生野区で最初に学校再編した小学校の跡地を使った「いくのパーク」という施設があります。

運営団体からは「施設には若者が来るから」と言われていて、「うちの地域には今大学生がいっぱいいるから、この大学生たちを利用してほしい。」と話していました。それで御幸森を活性化しましょうかって私もすごく喜んでいたのですけど、実際には、盆踊りなどをしようと思っても、調整が難しかったです。本来なら、この場所は地域とコラボしていかないといけないと思うのですが。

○吉住委員

課題感もあって、若者の話も場所の活用についてもあつたけども、その情報共有がなかなかうまくいってなかったり、地域側からは約束が守られていないように見えるというような現状で、今新しく例えば、「若者が来ますよ」と言っても、そこがそもそも課題だったというのはおっしゃる通りだと思います。でも元々、地域として盛り上げたいという思いがある中で、例えば相手側から見ると目線も変わると言うんですよ。実はやろうと思ったけど、何回か行つたけど連絡できなかったとかの事情もあるかもしれないので、前向きに、向こうの課題も聞いた上でお互い一緒にできることをまた探していけたらなと、聞いていて思いました。

○平島委員

毎月、地域と区役所と運営団体とで三者会議をしてるんですが、何か問題があつたときに回答がないこともあります。地域としては話し合いをずっとしているつもりですが。

○吉住委員

そういった事象が足元でありましたということですね。わかりました。

一旦、足元のことを言っていただいた方が、皆さんのテーマの解像度が上がる

かなと思って話題提供いただきました。一旦こういう新しいテーマを設けて生野区としてもプロモーションも含めて、盛り上げようとしてる中で、もう1回チャンスがあって盛り上げるにはどうすればいいのか。先ほどのように、コミュニケーションでの問題が起こったときに、このような進め方をすると良いんじゃないかみたいなことももしあれば。

○筋原生野区長

すいません、区長の筋原です。そもそもの「バイローカルの日」の説明がちょっと区役所の方から足りていなかったと思うので、少し補足をさせていただきます。「バイローカルの日」というのは、大阪でいうと昭和町の辺りから始まって、今全国で広がりつつあるのですが、将来自分のまちに「こういった人が来てくれたらいいな」というのを想定して、その人たちに対して、自分が自慢したいような、まちの自慢できる、地元のいいお店に声をかけて、「バイローカルの日」にちょっと屋台みたいな形を出してもらって、その場でお金が落ちて盛り上がるというよりは、明日から自分の近隣の店に行ってもらおうというような形でやろうという、そういうイベントなんですね。なので、集客というよりは自分が自慢したい・育てたいとか大事にしたい・応援したい自分のまちのお店を紹介して、そのお店に行ってもらおうというイベントなんです。周知期間があまりなかったのでもあまり周知できなかったのですが、それを今年から始めて、生野区の4か所でやったんです。桃谷公園・生野東公園・巽公園・清見原神社ですね。清見原神社の「バイローカルの日」は、ここでは松崎委員が中心となっていただきました。

私は御幸森に住んでいるので、確かに平島委員が言っていた御幸森の公園での行事の盛り上がりというのは本当にすごいですよ。こんなにたくさんどこから来るんだというぐらい子どもが来ますし、すごいんですけど、まずそういうところで何かまちのお店、自分が好きなお店、よく行くお店なんかも巻き込んでとか、一緒になってできるようになっていったらいいなと思ったので。御幸森でもそういうところを巻き込むアイデアなどをお聞かせいただけたらなという趣旨です。テーマがわかりにくくて申し訳ありません。

○吉住委員

今、松崎委員の紹介もあったので、実際にやられたこととか、その時にこういったアイデアがあったというようなものがもしあれば、議論の呼び水になると思うのでお願いします。

○松崎委員

私は生野区を4つに分けた北東エリアで「バイローカルの日」に携わりました。小路で生まれ育って現在も住んでいますので、小路地域に昔からあるお店、私が小学校の頃からずっとあるお店や、生まれる前からあるお店に来ていただけた

らなという思いもあり、全部で19店舗お呼びして、清見原神社さんでマルシェという形でさせていただきました。個人的には、同じエリアで元々「神社マルシェ」というものを開催させていただいているので、それとの違いにすごく悩んだのですが、意見交換テーマの補足資料に記載のある「バイローカル」の説明にも書いてありますが、阿倍野区昭和町でバイローカルによるまちづくりを進めている加藤寛之さんという方に各エリアの代表がバイローカルについて教えていただいて、勉強して実施したのですが、バイローカルというのは、あくまでその日単発でボンと盛り上がるイベントではなくて、日常なんですね。日常のお店をみんなに知ってもらおうということなので、行列ができるというのとはちょっと違ったりします。そうではなくて、「あのお店が出てる」とか、「今まであの店は前を通るだけで入ったことのないお店だったけど、お店の人の顔を初めて見て、次から入れそう」みたいなのをめざす取組なんです。

小路にあるイカ焼きとかをやっている三国屋さんってご存知ですか。結構歴史があって、私が2歳とかそのくらいの頃からずっとあるので、もう40年以上なんですけども、そこのお店も出てくださったんです。三国屋さんは小路では知らない人はいないようなお店です。あと新今里の方にある、文楽劇場におせんべいを卸している文楽せんべいさんも出てくださいました。「久しぶりに三国屋さん見たわ」とか、「地域にこんなお店があったんだ」とか、懐かしさだったり、改めてその地域の良さがわかったりっていうのを実感できたイベントだったと思います。

私が一番嬉しかったのは、「バイローカルの日」が終わった後に、マップの載ったバイローカルのパンフレットを見て実際にお店に足を運んでくださった方が結構いらっしゃったことです。例えば、席数が6席ぐらいのすごく小さいお店で、「お客さんが全然来ないんです」っておっしゃっていたSADAICHIさんというところが、この「バイローカルの日」をした後にパンフレットを持ってお店に来られた方が何組かいらっしゃったそうです。1回行っていただいたら、もうハマります。そのぐらい料理も美味しくて、いろいろなお酒も置いてらっしゃるので、そういうお店を知ってもらうのが、このバイローカルの活動だと思っています。

意見交換のテーマについてですが、この取組を今後どうするかというのは、今回のこの活動はやりたい人が手を挙げてやったのですが、それを継続するのは、難しいと言えれば難しいと思います。今年は区役所に予算をもらってやりましたが、来年度からは「自分たちでやってください」と言われているので、自分たちでどのようにお金を出してやっていくのかということも問題ではありますし、誰がやるのかという問題もあるんですね。

私が今思っていたのは、町会との連携だったりがあるかと思っています。私はあまりまだ詳しくないのですが、まち協さんと連携したりとか、地域それぞれにある

町会さんと連携してやるのが一番いいのかなと思ったりしました。

以上です。ありがとうございます。

○吉住委員

バイローカルに実際に携われたときのアイデアのお話でもありましたが、実は私もこの南西エリアのお店に行ったときに、バイローカルのマップがあったおかげでその後数店舗を珠数つなぎで行けたということがありました。そういう情報の見える化があることで、より人が来れるようになるということと、ただ継続性を考えたときに、区役所っていうちょっと力強いパートナーの存在や、もうちょっと手動でやるときに人の問題、やり方の問題も工夫が要るから地域と連携できればということでしたね。ありがとうございます。

○須郷委員

林寺の須郷です。私は林寺小学校の跡地にできたアブロードインターナショナルスクール大阪校で職員として働きながら地域連携アドバイザーをしています。

少しテーマからずれるかもしれませんが、年間で様々なイベントをアブロードが開催している中で、近くに生野商店街があって、いろいろなお店が入っているので全部は無理ですが、ピックアップして何店舗かにイベントに入らせていただいています。食事・ジュースの提供や、駄菓子とか、ゲームをしたりとかで交流を図って、保護者や子どもたちにも知っていただいて、それがきっかけで商店街に繰り出したり、購入行動に繋がったりしてるっていうのを聞いているので、ちょっと形は違うかもしれませんが、ある程度の貢献には繋がっているんじゃないかと感じています。

平島さんとは前回も同じ部会でご一緒してお話を伺っていましたが、林寺とアブロードインターナショナルスクール大阪校との関係性は非常に良好でして、どうしてそんなに揉めるんだろうかといつも不思議に思っています。私は地域連携アドバイザーという立場なので、どちらの立場でもあります。地域でもあり、アブロードの職員でもある私が感じているのは、娘が林寺小学校に通っていたときには PTA の会長をしたり、まちづくり協議会の理事をしたり、林寺で一番大きなイベントである盆踊り大会の初代活動委員長をやったりという形で地域とは結構関わっていたので、知名度だったり、信頼度はあるのかなど。例えば間に入っているいろいろな話を調整するとき、もちろん不満や文句が出たりするケースはありますが、私はまず地域の話をしっかり聞いたうえで、アブロードに対して「地域はこういった希望・要望をしている。何とかありませんか。」と言っています。その時に、何とかなる部分と、何ともならない部分がありますので、そこは今度アブロードとも話を詰めながら、ちょっとずつお互いを近づけていって、一番良い妥協点を見出すという形でやっているのです、意外とうまくいっ

てるのかなと思っています。それと、いつも言われるのは、お互いが歩み寄るって言うんですけど、私はそれでは満足度が低いと思うんですよ。つまり、アブロードにとってこれが一年で一番大事なイベントなんだとか、地域にとって何としても全面的に使わせてほしいというときには、10:0とか0:10っていうのを作らないと信頼関係は生まれえないと思うんです。それで、私が成功したと思ったのは、林寺で一番大きなイベントである盆踊りの日、本来ならアブロードの行事が入っていましたが引き下げていただいて全面的に開放するという形をとったのと、準備で櫓やテントを建てるにはイベントの日だけ押さえれば良いというわけではなく、前後の日にも影響するわけです。そのことをちゃんとアブロードに理解してもらって、その期間は地域に全面的に提供してもらうことを実現したことによって、その後、例えばグラウンドの一部をアスファルト化することになり、今は人工芝を敷いていますが、そのときもいろいろと不満や文句が出ましたが、ちゃんと話をしたうえで、進めてきているのであまり揉めるという感覚はありませんでした。いつも御幸森のお話を聞いてすごく残念に思い、何とかうまくいってほしいなと思っています。

それともう一つ、松崎さんがおっしゃってましたが、持続可能にするには、何というか効果的な世代交代が必要だと思います。実際、ご年配の方がものすごく頑張っているんですけど、若い人たちがなかなか入ってこないとか、関心がないのか、きっかけがないっていうのか、なかなか難しい面があります。町会活動もしかりです。いろいろな面で世代交代がスムーズにっていないのを感じていて、それはどうしたらうまくいくのかなと。私が思うのは、お年寄りだけでも駄目だし、若い人たちでだけでも駄目だと思うんです。上から下までまんべんなくいて、順繰りにスムーズな世代交代がなされるのが理想的だと思うんです。それがなかなかできない中で、林寺の取組としては、とにかく各町会に少しでも若い人たちに入ってもらえるように心がけています。行事に参加したときには、どこの町会の方であっても若い人たちには熱いエールを送るとか、「一緒にやろう」という形にしています。まだ全然広げられていませんが、こうしたことを地道にコツコツと続けるしかないのかなと思っています。

○吉住委員

ありがとうございます。須郷委員には2つのことをおっしゃっていただきました。一点目は、エリアの中でうまくいってるポイントとして思ったのが、二つの属性の方々の間に立つ立場を自分が持たれているということです。間に立ってお互いの言葉をうまく翻訳してその妥協点を一緒に見つけることができる人がいれば、その取組はうまくいく可能性が高いのではないかとということでした。二つ目の世代の話も、もしかするといろいろな世代の方が参加した後で若い人

と御年輩の方で対立が起きて、「あっちは何言ってるかわからない」みたいなことになったときに、同じように間に入って、「ご年配の方はこう言ってるけど、若い人向けだったらこうだよ」みたいなものがあるといいのではないかと思います。

○須郷委員

でも、誤解とかもあるんですよ。だからそこは取り除いてあげないと、いつまで経っても誤解のまま、事実と違う解釈をしているままのケースがよくありますので気を付けないといけませんね。

○吉住委員

間に立てる、誤解を解ける人・役割が一つのアイデアとして、前に進むにはいいんじゃないかという話かなと思います。ありがとうございます。

もしありましたら、中村委員もお願いします。

○中村（寛）委員

もういろいろと話題に出ているので重複するかもしれませんが、意見交換のテーマの参考資料を送っていただいたときに、「こんなことをやってたんや」ぐらいの感じだったんです。前回もまちの未来部会や全体会に参加させていたかったので、「ヒートアッププロジェクトやってるよ」とかあちこちで聞くのは聞くんです。でもそれは、参加店舗の人とかからです。確かに、この開催日の前に、「明日、巽公園に来るやろ？」みたいな電話があって、何をするのか聞いたんですが、バイローカルを聞き間違えて、「“入ろう会”をするから」って聞こえて、全然意味がわからなくて、後で他の人と喋っていたら「バイローカルの日というものを清見原神社とかでやっていたね」みたいなことを聞いて、「あーそのことだったのか」と分かりました。“入ろう会”って何に入るのかなと思いつつながら、その日は予定が詰まっていたので行けなかったのが様子はわからなかったのですが。こんなに立派なパンフレットも、参考資料で送ってきてもらって初めて見た状態で、「これ誰か見たことある？」って近所の人や友だちに見せたら、これに関わっている店舗の人とかは確かに「あ、知ってた？」みたいな感じで話したんですけど、近所の子どもさんがいるおうちで聞いたら、「へえ、そんなイベントやってたんだったら、ちゃんと教えてくれたらいいのに」みたいな感じでした。私は人権啓発推進員の活動と、毎月19日の「いくのの日」が盛り上がるようにということで旗をかけてもらったりするという活動は日頃からちょこちょこさせてもらっていますが、生野区を4つにわけて実施した「バイローカルの日」に、実際にどれぐらいの人が集まって、どれぐらいの成果があったのかというのは少し聞けたらいいかなと思って今日来させてもらいました。先ほど松崎さんもお話ししてくださって、行列ができることを目的でやっているのではないというのはわかるのですが。「次はどうするのか」という話もありましたが、

おっしゃっていたように、まち協とかがあるので、そこともっと密に「こういうことをしていこうと思う」という話ができたら、そもそも地域には行事がいっぱいあるので、そこに上手にマッチングできたらいいのかなと思いました。須郷委員はアブロードさんについて、地域とコーディネートをするお仕事をされているので、できるのかもしれないですが。実際、まちづくり協議会で90何%のうちの10%がうちの地域なのかなといつも思いながら区政会議に来ているんですが、まちづくり協議会としての会議は年に1回の総会しかしていないし、どういった感じでまちづくり協議会としてとか、町会長会議でやっているのか。もうやっているからもういいねんみたいな感じでおっしゃるんですけど、そこに若い人とかPTAのOBとかがほとんど関わっていない現状なので、それを飛ばして今度若い人って言ったらちょっと年齢差もありすぎるし、話し合いをする場所も実際のところはないので、こういうバイローカルの取組をされるのなら、もっとまち協さんとか地域とかに最初から関わってもらって一緒にできる行事を応援してもらったと思います。新しい人はたくさんいると思うし、やりたいこといっぱいあると思うのですが、どうして最初からまち協や地域と上手にくっつけていくことをしなかったのかなと思います。散らかしてるようにしか思えないです。いっぱい団体作っては、そこで一発やってもらって、「盛り上がって良かったね。次どうするかは自分で考えて。」というのではやっぱり継続しないと思います。例えば、PTAは自分の子どもが卒業したらいなくなりますよね。だからPTAで新しい行事を始めるときには、自分がいなくなっても継続していけるのかとかをいつも考えて、行事を作ったりしていました。私はまち協さんや地域の方とお話ししながら進めるというのをずっと心がけてきたつもりですが、どこからか、もう「自分たちが楽しかったらいいやん」とか「人が集まったらいいやん」という感じでみんなそれぞれで動いていたりします。地域の行事があるのだから、そこで一緒にするとか、形をちゃんと作った上で「バイローカルの日」を開催できなかったのかなというのは思います。正直、この開催日のことも私は全然知らなかったの、「わかってたら行ったのに」みたいな部分もありますし、せっかくこんなパンフレットがあるのに、関わったお店にしかないのか、どこに置いているのか分からないし、ご近所の若いご夫婦も知らなかったみたいなので。「いくのの日」にしても、人権啓発の活動にしても、バイローカルの研修会をしたりしているのも、なかなか区民の皆さんまで伝わらないので、これからどういった周知の仕方をしていくのが伝わりやすいのかっていうのは課題かと思っています。そういうこともない中で単発的に「盛り上がって良かったね」だけではやっぱり継続には程遠いと思います。どうせするならもっと多くの人に関わってもらって、ぶつかるところには調整する人が必要だよって話もありましたが、ぶつからないとわからないこともあると思うので、どうせ区役所さんも

お金をかけてやってくれるんだったら、ちょっとぶつかったところも調整しながら入ってもらえたら、これからはいいんだろうなと思うところですが、2回目からは「自分でしなさい」ということになっているんですか。

○松崎委員

「自分でしなさい」というか、この取組の仕組みというか、「こうしたら地域全体が盛り上がるよ」というのを教えていただいたので、それを今後はまち協さんと一緒にやったりすることで、より一層パワーアップできるのかなと思います。あと、生野区を4つのエリアに分けているんですが、少し広すぎて、1つのエリアの中でも「ここだけ」という感じで、ポツッとやってもいいのかなと思います。なので、もうちょっと小さいエリアに細分化して、それこそ各まち協さんや、各地域でやるぐらいの方がギュッと詰まっていた方がいいのかなと今思いました。

○吉住委員

中村委員のお話を聞いて、多くの人に関わって取組をしないとだめとぶつからないし、前にも進まない。取組はいいんだけど、何か伝わりきっていないというか、元々あるイベントを行っている団体と繋がりが無いのはもったいないという思いの方が強いのかなと思いました。なので、松崎委員もおっしゃったように、まち協さんが規模感的に一番良いのかどうかはまた検討が必要かもしれないですけど、そうやって地域と関わると自分ごととしていろいろな方の顔がわかって、やっても具体的な地域の皆さんもわかるので、新しいバイローカルのイベントであってみんなを巻き込みやすいのかなと聞いていて思いました。そして、あえてエリアを細かく区切って一体感を持ってやるのも一つのアイデアかなというふうなことは聞いていて思いました。ありがとうございます。

大久保委員もご発言をよろしく申し上げます。

○大久保委員

西生野の大久保です。私は今回初めて区政会議に参加させていただきます。私は、3年前に「生まれも育ちもそこに住んでいるんだから町会長をやれ」と先輩から言われて、もう来年で70歳になりますが、一応現役を息子に譲ったので、町会長をやらせてもらいましたが、やってみると、まず全てがややこしいんです。今でも、まち協や町会長会議やいろいろあって、もうその組織さえ理解できない。町会長になって1・2年目で既にまち協の会計をやって、何々協議会の総務部長もやって、名簿もいっぱいあって、僕の名前もいっぱい載っていたりします。まず、高齢化・少子化になってきた中で、昔のこの大きな組織がありすぎるとややこしい。だから今、中村委員がおっしゃったように、「バイローカルの日」ってこんなことやってたんだと私も思いました。そういう意味でも、やろうとい

うこと自体はすごく良いことだと思うんですけど現状のキャパに合った組織を根本的に見直さないと、もうややこしいばかりで、やることも多すぎて、このままでは若い子は絶対入ってこないでしょうね。

西生野の場合はPTAのOBとか若手が、巨大迷路や花火をやったりするんですが、すごい人が集まるんです。そのときに町会長さんたちもお時間あればスタッフでお手伝いいただけませんかって若い子に言われたら、「せっかくだし行こうか」となる。行くと、来年から町会長だけの何かブース出そうかとか盛り上がるんですよね。

だから、わかりやすいコンパクトな運営にしていけばいいのではないかと思います。僕から言わせれば、エリアごとに別に線引かないでいいと思うし、あちこちでいろんなことやってるけど、来年は一発大イベントを全員でやろうみたいなことで全体を盛り上げた方がシンプルでいいんじゃないかと思います。

生野区には紫陽花まつりとかいろいろなお祭りが、訳がわからないほどありますよね。私はここ3年町会長をさせてもらっていて、その状況はちょっと今の生野区の雰囲気というか、年寄りが多くて少子高齢化のまちには全然マッチしてないなと感じています。

それと、町会についても町会に入っていない方や辞める方がたくさんおられます。大きな土地に新しく10軒建つと、入会のお勧めはしますが強制・強要できませんので、「町会はこんなことやっているのによければ入会してくださいね」って伝えたら半分ぐらいは入ってくれるんです。若いご家族が入ってくれたら、「今度モーニングやってるよ」とか、「ぜんざいの日とかあるよ」って伝えたりしているとね、結構班長さんを引き受けてくれたりするんです。こぢんまりとやっていけばできると思うのですが、この意見交換の参考資料を読んでも、バイローカルについて私は理解できてないのが正直なところです。

○吉住委員

ありがとうございます。いろいろな人を巻き込むにあたっては、もう少しシンプルな組織で、わかりやすく伝わりやすいものの方がいいんじゃないかということですね。ありがとうございます。

最後になってしまいましたが、平島委員お願いします。

○平島委員

今、大久保委員が言ったことと同じなんですけど、私はバイローカルの資料をもらって見た瞬間に「ダメやな」という感じで、興味がなかったんです。というのは、出店しているお店は誰が選んで、入っていないお店は何で外れたのか選考の仕方もわからない。また、松崎委員が「こんな店あったんや。よかったな。」っておっしゃっていましたが、よかったのなら、もうそのお店は流行っているはず。30年以上前に屋台村というのがあちこちにできました。屋台村にはラ

一メン屋でも何でも、いろいろな業種が入ってきて、そしてすぐに潰れました。だから、バイローカルも屋台村みたいなことやろうとしているなっていう感覚だったんです。今の若い人にはよくわからないと思いますが、こういうのは結局やっても潰れるんじゃないかと思います。あと、エリアの区分についても、私は北東のエリアになりますが、清見原神社は遠すぎて行く気がしないです。自転車で行ったらお酒も飲めないし。だから、その地域ごとにお店があるので、箇条書きのように、今週はこの店、来週はこの店と紹介していった方が平等でいいと思います。また、例えば桃谷商店街でも結構いろいろな店が新しくできていて、私もたまに行ったら「こんなお店ができているんか」ってわかるんですけど、バイローカルのお店マップのようなパンフレットがあって、ちょっとずつ紹介しながら、1年ぐらいで全部のお店が紹介できるというようなものがあればいいのではないのでしょうか。昔の電話帳みたいなもので。そのようにやったらいいんですけど、このお店は誰が決めたのかちょっと聞きたいです。言ったら悪いけど、いかにも行政が考えたものだなんて。民間に任せたら、こんなことにならないんじゃないのかなというのが私の感想です。

○吉住委員

平島委員ありがとうございます。とても親心があるなと感じました。ずっとこの地域に住んでいて、潰れたお店もたくさん知っていて、同じ過ちを繰り返すだけだから駄目だっていうよりも、せっかくやっているのに同じ過ちの方向に行っているのがちょっともったいないというか、看過できないみたいなところだと思います。

せっかくやる気を持って動いておられる人たちもいますし、実際に取組を止めるのは難しいところもあるので、「だからやめた方がいい」と言うよりも、「そっちの方向に行くともあまりうまくいかないと思うから、こういうことをした方がいいよ」とか、「駄目だ」と言うだけではなく「こういう方法だったらうまくいくかもしれないよ」みたいなことも一緒に伝えて、良い方向に行くように一緒に歩いていただけるといいのかなと思いました。彼らも失敗したくて失敗するわけではないので、そこはむしろいろいろなことを見てこられた平島委員や御幸森の人たちだからこそできるアシストなので、ぜひアイデアも含めてこれからお願いできればなと思いました。

時間があまりないので、皆さん一緒にご発言いただき、いろいろな具体的なアイデアが出たので、これをもちまして、より良い次の「バイローカルの日」を遂行していくための企画を、区役所さんの力もいただきながら、皆で考えていけたらと思っています。基本、区役所さんというよりも、我々自身の民側がこれからも知恵を振り絞って進めていけたらなと思います。皆さまありがとうございます。

では、一旦時間になりましたので、意見交換の時間は終了とさせていただきます。では、部会長にボールをお渡しいたします。

○須郷委員

吉住委員ありがとうございました。

それでは議題3その他について、事務局から報告事項等がありましたらお願いいたします。

○森区政推進担当課長

皆さまお疲れ様でした。事務連絡に入る前に、先ほどのご質問等にお答えいたします。

平島委員から、「バイローカルの日」のお店は誰が選んだのかとの質問がありました。こちらは4つのエリアそれぞれで5、6名ぐらいのチームを作って運営委員となり、松崎委員も含めてですが、そのメンバーにお店選びや出店交渉など、全てを行っていただきました。

中村委員からは、どれぐらいの集客だったのかということですが、北西エリアの桃谷公園で行ったものは、夕方から夜8時ぐらいまでの時間で開催し、参加店舗が14店舗で来場者数が約600人でした。次に南西エリアの生野東公園で行ったものは、お昼前からお昼の3時ぐらいまでの時間帯で開催し、参加店舗が15店舗で来場者数が約900人でした。次に、北東エリアの清見原神社で行ったものは、10時ごろから夕方4時ごろの時間帯で開催し、参加店舗が19店舗で来場者数が約1000人ということです。最後に南東エリアの巽公園で行ったものは、夕方から夜の8時ぐらいの時間帯で開催し、参加店舗は14店舗で来場者数が約600人と報告を受けております。

では、事務連絡に移らせていただきます。本日いただきましたご意見などにつきましては、令和8年1月27日に開催される全体会で部会報告をいただき、他の部会の皆さまにも共有させていただきます。部会報告の内容については、事務局にてひとまず整理させていただきます、本日進行を務めていただいた吉住委員と調整させていただきますのでよろしく申し上げます。

なお案内文にも記載させていただいております通り、令和8年度生野区の取組(案)という資料は、全体会でもご覧いただきますのでお持ちいただきますようよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

○須郷委員

ありがとうございます。それでは本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言申し上げます。

○筋原生野区長

皆さま、長時間貴重なご意見をありがとうございました。

今日いろいろとご意見お聞かせいただき、永遠のテーマみたいところはあ

りますが、改めて周知の難しさを感じました。それから、いろいろなイベントでどれだけ特徴を出して、いろいろな方に来ていただくかというのは、各地域で本当に工夫をしていただいているところだと思いますが、その特徴の出し方と公平性のバランスなどについても、改めて非常に参考になるご意見をたくさんいただきました。また区政に反映していきたいと思いますのでどうぞよろしくお願い致します。本日もありがとうございました。

○須郷委員

ありがとうございました。区政会議は、生野区の将来について区民同士が率直に情報交換し、意見を語り合える場です。令和8年1月27日火曜日には、全体会の開催が予定されております。皆さまのご出席をよろしくお願いいたします。

それでは、もこれをもちまして、まちの未来部会を終了したいと思います。非常に外が寒くなっておりますので、どうぞ皆さま、お風邪等召されませんようにご注意いただきまして、12月ですので少し早いですが、良いお年をお迎えください。ありがとうございました。